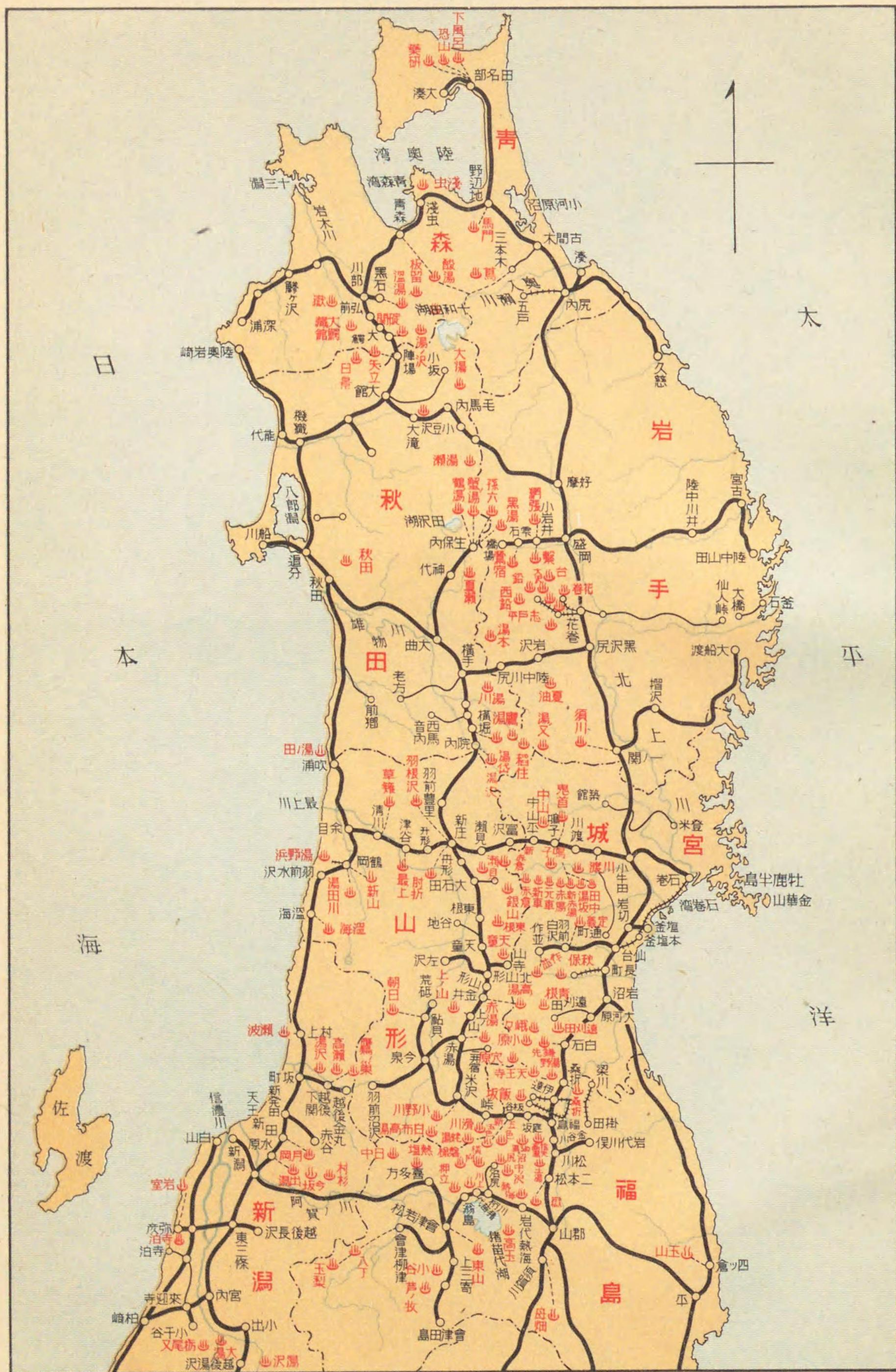






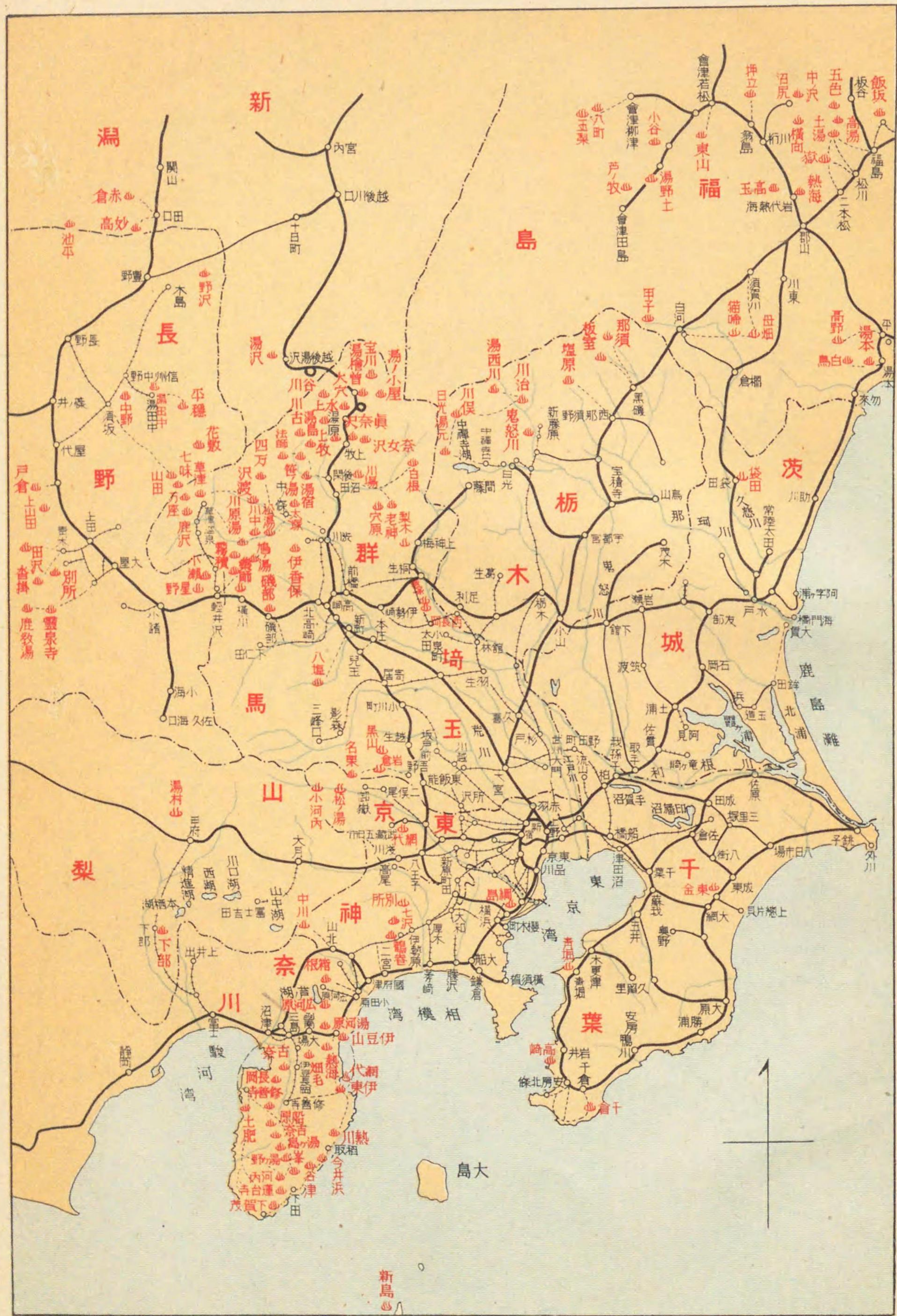
圖內案泉溫地方北東



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



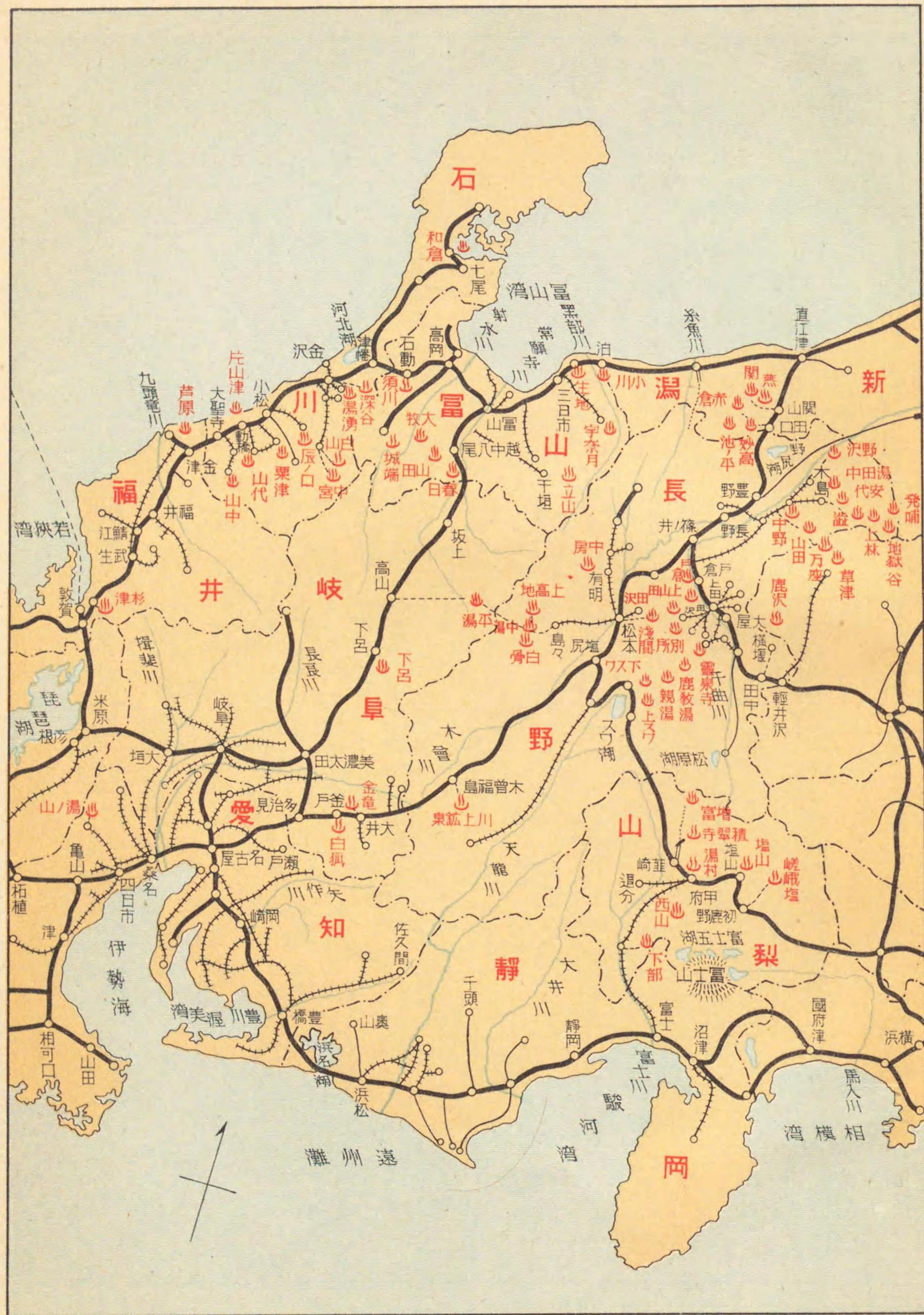
關東地方溫泉泉案內圖



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



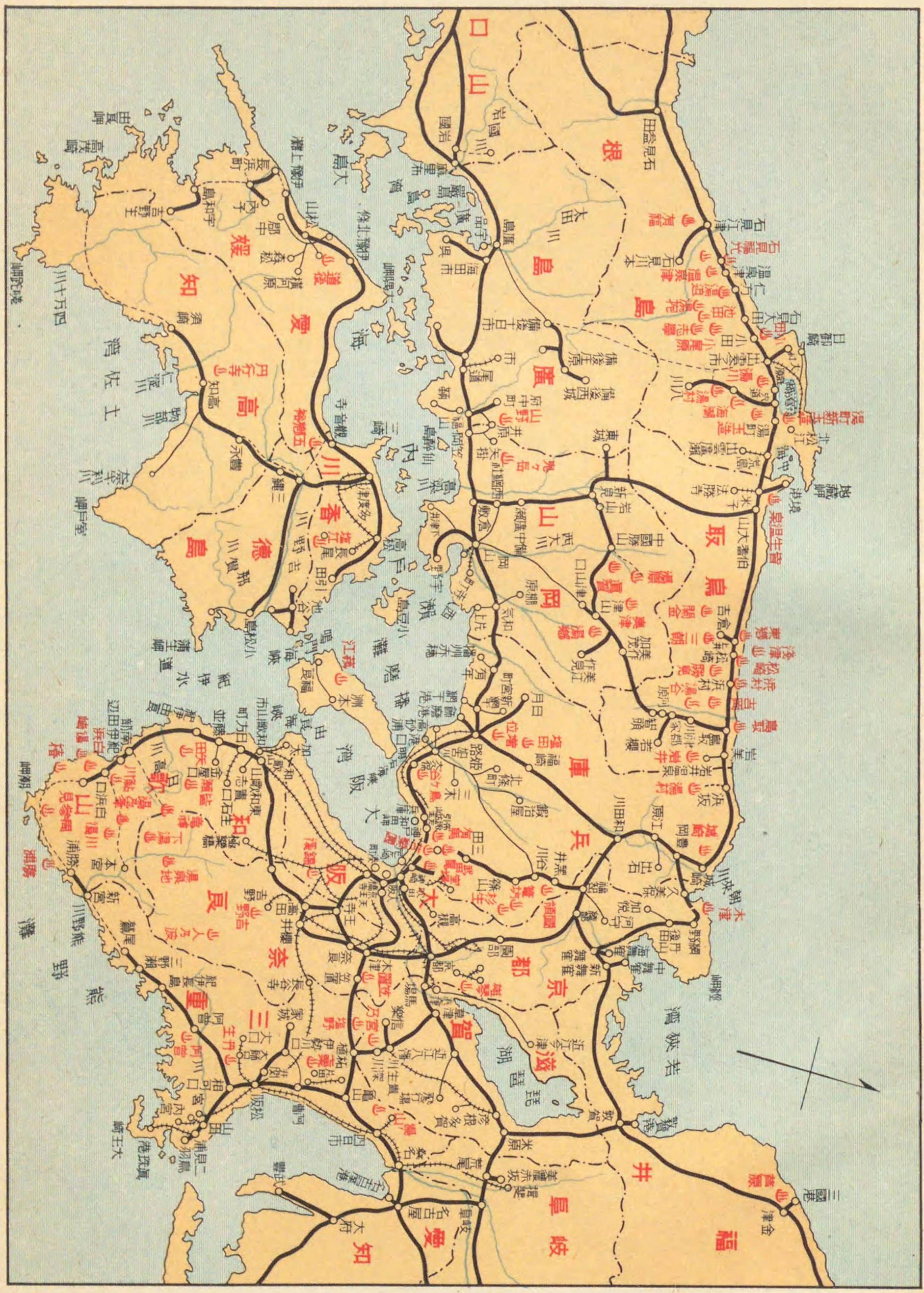
中部地方温泉案内圖



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



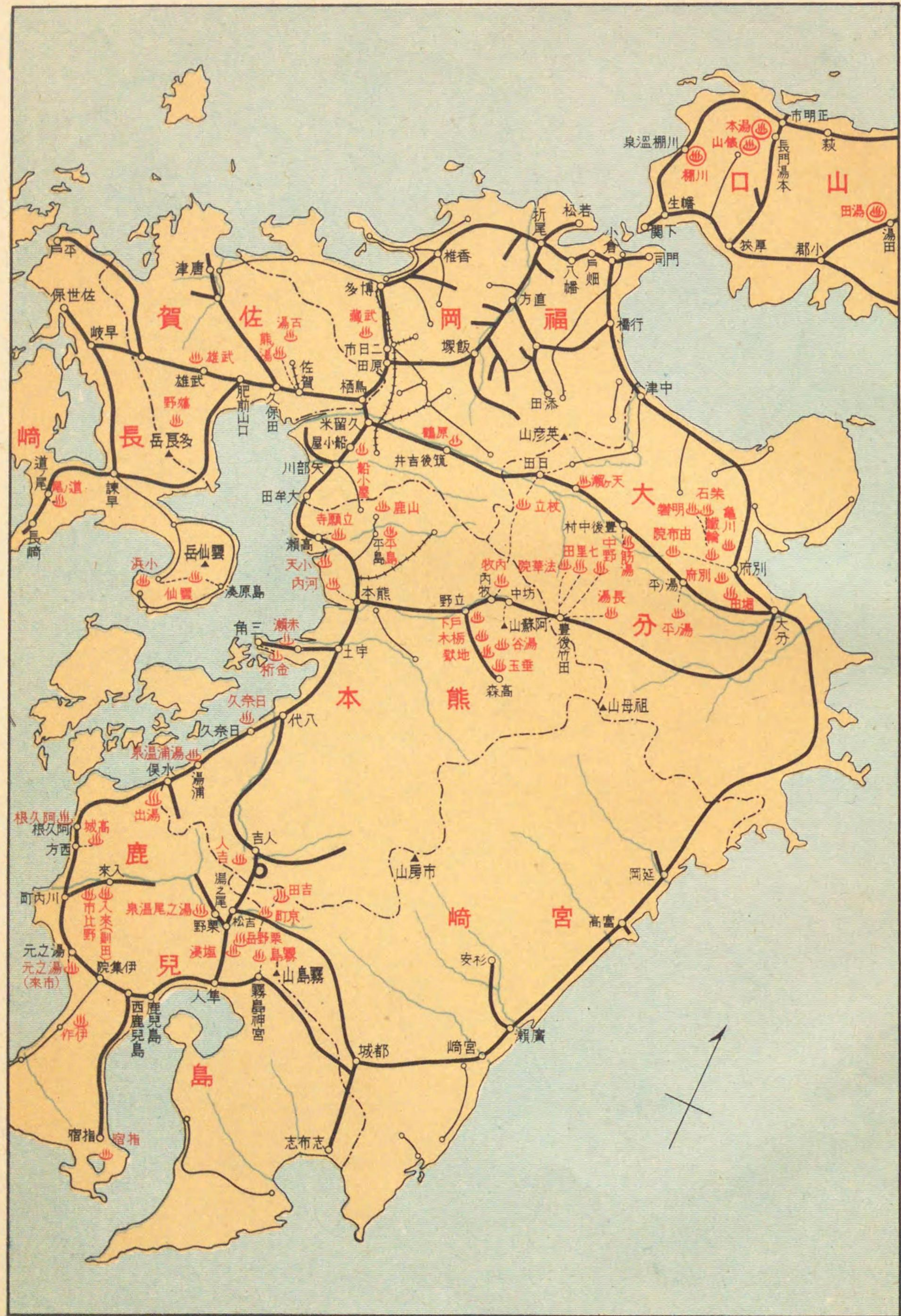
入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



關中及方溫泉泉案內圖



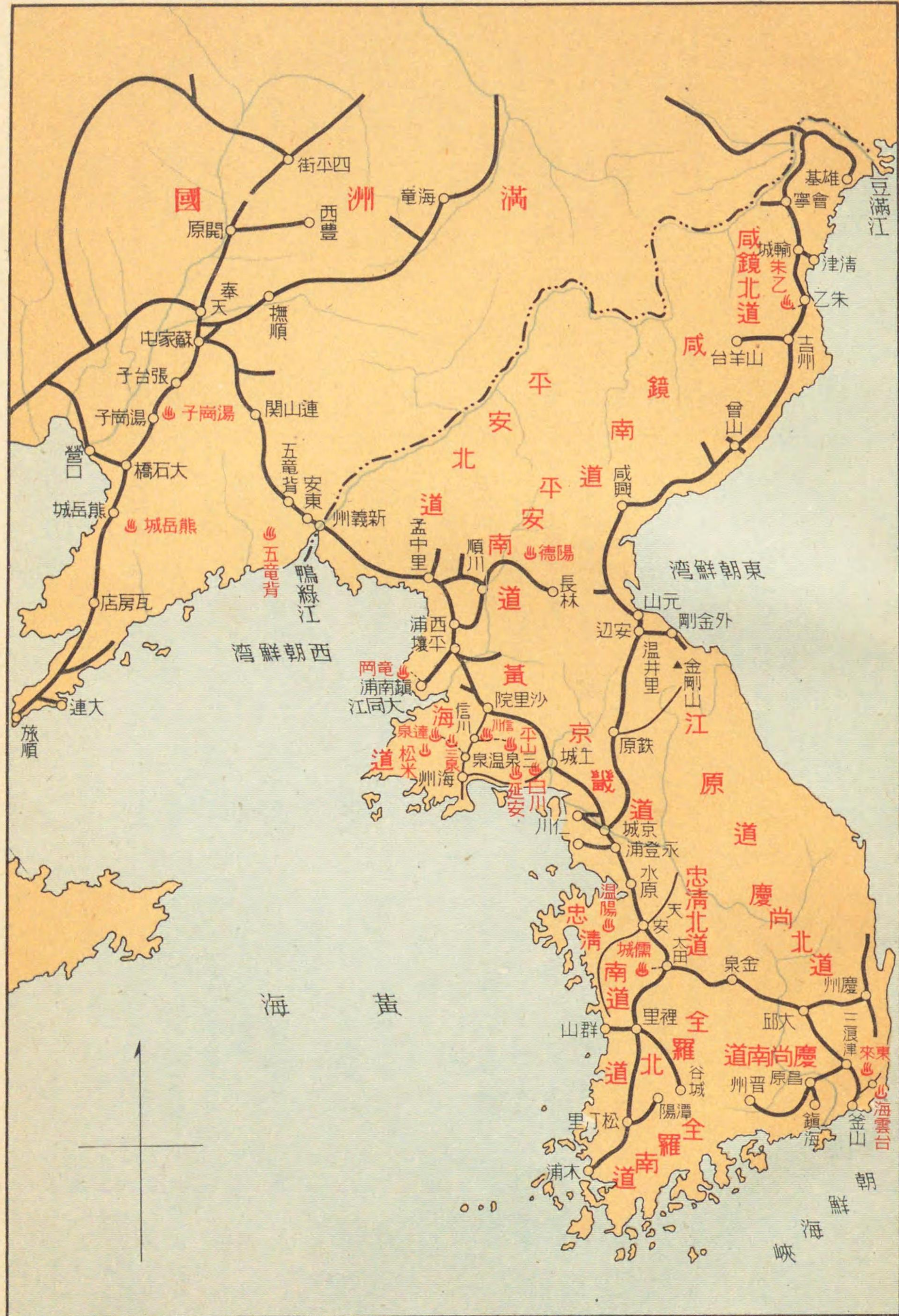
九州地方温泉泉案内圖



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



圖內案泉温方地洲滿鮮朝



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



索引

あ

有馬湯山道記	三七、三九
— 温泉試説	二〇四
— 盛衰史	二九
— と柘植龍州	三三
— の洗浚工事	三五
熱海温泉試説	四〇
— 考	五三
— の大湯	一〇三
— 案内	五四
赤倉ノ湯	四八
味に因んだ温泉名	一〇三
案内記は信用状である	一七五
荒井寛齋	二七三
巻法	四九七
アンケルスタイン	五五
アルプス登山の折	八三
アルコール飲用禁止	一五一

い(ゐ)

アルカリ泉	三五二、三五三、三七四、四三二、四四五、四五二
稻生若水	三三
伊香保志	六〇
伊太利の温泉治療の發達	八〇
— 觀光事業	八三
— の温泉氣候療法	八四
石津利作	六四、六五
— 谷傳一郎	六四
— 川成章	六四
如何にして獨逸の温泉は進歩せしや	七一
色に因んだ温泉名	一〇三
— を白くする湯治場	五二七
飲用水	一四〇
— 泉法	四一八
— 水の温度	四二〇
硫黄泉と火山	二八九

う

硫黄精煉法	二九〇
— 泉	三六一、三七七、四一五、四五三、四五五
胃腸と泉水	四二四、四三五
— 病に飲む泉類名	四四四
— 病と泉效	四四九
— 酸に效く温泉	四四九
— 腸病特效の温泉	五〇七
萎縮肝	四七三
イオン表による分析表	六二、三四八
— 系による温泉大別	三四三、三四七、四〇九、四二二、四三五
— 分類色別泉質構圖	三四六
宇津木昆臺の温泉辨	三三
— の假造泉	三七一
宇田川榕菴	四一、一八七
— の温泉試説	一八七
— と化學	一八八
— の温泉研究年次	二〇二
— の時代の温泉觀	二二二
— の温泉效能説	二二四

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



温泉の開發 一八二  
 葡萄酒 四七三  
 ウイスキー 一八二、五七  
 ウイルヘルム・ケ・ケルグホーフ 二六二

え(急)

遠西假造泉 二七三  
 鹽化土類含有食鹽泉 三五五  
 鉛毒 四七一  
 エムス温泉と研究所 二五七

お(老)

温泉國策樹立の要 一  
 治療學研究所 二二、一九  
 (獨逸)治療學會 一三、一六  
 地の衛生問題 一四  
 厨房 一五、七五  
 治療補修講習會 二  
 に関する團體名 三  
 論 三〇、三三  
 説の發達 五二

場改革案 五八  
 起原考略 六〇  
 療養方針 六六  
 と保健 六六  
 研究論文發表表 二七六  
 地の傳染病 七四、四三  
 と風景 八七  
 地の旅館 九〇  
 名考 九三  
 の發見と傳説 一〇七  
 を發見したる動物 一〇八、一〇九  
 と崇拜 一一  
 浴遊請暇 一一  
 の行遊 一八  
 湯治の有様 三〇  
 地と都會との關係 三三  
 地の衛生的組織 三七  
 地域 三三  
 道路 一三四、一三七、一三八  
 交通機關 一三六  
 建築 一三六、一三五  
 下水 一四二

靜肅 一四五  
 に於ける獨逸國の申し合せ 一四八  
 の救急手當 一五三  
 の取締 一五四  
 と地變、亂墜 一五七  
 案内記 一六七、一七五  
 記載要目 一六七、一七〇  
 地開發は緊急の觀光事業である 一七七  
 に設置すべき事 一七九  
 雜記 一九一、一九九、二〇四  
 もと話 二〇一  
 地と中立地帯 二〇五  
 療法の禁忌症 二〇八  
 變方 二〇九  
 小説 二一九  
 の生成 二二三  
 涌出 二二六  
 に含まれる主要物質 二二七  
 分類の試案 二二七  
 泉水含有固形物量 二四四、二四六

に關する警告 三七一  
 治療の基礎的知識 三九六  
 療法と水治療法との差異 三九九  
 治療各論 四四四  
 發見年代記 五一九  
 典籍現在書目録 五五四  
 温度に因んだ温泉名 一〇一  
 浴 一四〇、一四五  
 と血壓 一四二  
 の醫療效果 一四四  
 太田雄寧 一四五  
 大内青巒 一五三  
 大槻文彦 一五九  
 大塚陸太郎 一六〇  
 緒方正清 一六一  
 小川琢治 一六〇  
 鬼首吹上間歇泉 一六〇  
 黄疽 一六〇  
 オツチリエン泉 一六〇  
 オホ 一六〇

か

香川太沖の温泉説 二六、三三、三三  
 貝原益軒 三七  
 河合章堯 三七  
 川に因んだ温泉名 九八  
 一口孫治郎 九八  
 假説鐵泉法 一〇九  
 假説鐵泉法 一〇九  
 造泉 一二三  
 海水浴 一三七  
 洋氣候 一五八  
 氣候と海水浴 一五九  
 柱圓玉 一六〇  
 間歇泉 一六〇  
 含砒綠礬泉 一六〇  
 交感神經 一六〇  
 高山病 一六〇  
 風 一六〇  
 肝臓及び脾臓病 一六〇

外傷

火傷 打撲特效の温泉 四七三  
 眼病 五一三  
 特效の温泉 四九四  
 カールスバット 五一六  
 カベツル 六、七  
 八六

き

氣候と天候 一七、七、四三三  
 療法 四三三  
 の要素 四三三  
 の分類 四三三  
 一歴 四三三  
 一流 四三七  
 衣笠豊 六四  
 強食鹽泉 三五四  
 吸入 四三〇  
 の方法 四三二  
 キンゲン温泉國立研究所 一九

観光政策

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



温泉知識

- 事業の目的 一七七
- と温泉 一八〇
- 協会と温泉協会 一七八
- 倉谷安齋 三九
- 温泉氣候療法 六一
- 法 一五九
- 施行規則 一六三
- 山と温泉との問題 一九一
- 泉の醫治効果 三三三
- 雲助 二六
- 空氣浴 二〇〇
- 腹と飲泉 四九
- 波湯 二六七
- 草津温泉の時間湯 三三、三〇
- に關する文獻 三三
- の入浴時間制度 二八二、二八四
- 入湯案内記 二七七
- 化石水 三五
- 苦味泉 三六、三六、四七
- 乾癬 四八
- 脚氣特效の温泉 五六

け

- 下痢 四五〇
- 結核と入浴 四五五
- 血行循環障害 四五六
- 液病 四六六
- 婦人脂血症 四七、四八四
- 月經と泉效 四八三

こ

- 後藤良山 二二、二四
- 越泉譜 四四、九一、二六、三三
- と宇田川裕菴 三三六
- 今日新湯 三八
- 小村英菴 四四、四八、二六、三八
- 家の家歴 三三〇
- 松原勝造 二八三
- 五井塘雨 二二五
- 龍背温泉 三二、三七
- 興城温泉 四五二
- 呼吸器病に效く泉水 四五二
- 特效の温泉 五四

五八二

さ

- 子寶の湯 五〇
- 供の瘡の温泉 五二七
- 酒井谷平 六六
- 澤元愷 二四、二八
- 山海關 三二
- 酸性綠礬泉 三〇、三七
- 砂漠氣候 四四一
- 坐骨神經痛に效く泉水 四六二
- ザルツプルンネン温泉研究所 二〇
- サロモンカルザイの警告 三七一
- 舍密開泉 四一、九〇
- 外篇第一函 一九二、二〇
- 諸國温泉試説 四四、九一
- 新宮涼庭 五〇
- 社団法人日本温泉協會 六七
- 鹽に因んだ温泉名 一〇一
- 蒸氣浴 二四三
- 人工鑛泉と天然鑛泉 二五〇

し

- 泉水の分類別 三四一
- の溶液 三四三
- 体内に於ける作用 四二
- 浴の效果の綜覽 四八
- 背髓病と泉效 四六〇
- 特效の温泉 五二
- 腺病 四七五
- 者の手當泉效 四七六
- 特效の温泉 五二七
- 性病特效の温泉 五二七
- 癢痒 四八八

そ

- 平活齋の温泉説 二六
- 但馬湯治指南車 三九
- 城崎湯治指南車 五〇
- 但泉紀行 五〇
- 竹中邦香 六〇
- 高安慎一 六六
- 武田軍治 一五九
- 泰西鑛譜 一九、一〇〇

た

- 痛と入湯 四六一
- の特效温泉 五〇八
- 脂肝病 四七一
- 小兒の呼吸器カタル 四七六
- 子宮洗滌 四八一
- 周圍炎 四八一
- 腎臓症患 四八九
- 結石 四九〇
- 紫外線の効果 五〇四
- 新陳代謝病に效く温泉 五〇五
- 痔疾の特效温泉 五三三
- 水銀中毒 四七一

す

- 全國温泉鑛泉に關する調査 二、六五
- 西洋鑛泉譜 四四、五一、九五、一四四
- 石油泉 三三五
- 膏含有食鹽泉 三五六
- 性苦味泉 三五七、二〇、四四八
- 泉 三五七

せ

- 痛と入湯 四六一
- の特效温泉 五〇八
- 脂肝病 四七一
- 小兒の呼吸器カタル 四七六
- 子宮洗滌 四八一
- 周圍炎 四八一
- 腎臓症患 四八九
- 結石 四九〇
- 紫外線の効果 五〇四
- 新陳代謝病に效く温泉 五〇五
- 痔疾の特效温泉 五三三
- 水銀中毒 四七一

索引

- 信夫高湯の鑛毒問題について 二八五
- 位置 二八六
- に於ける硫黃精煉工場 二九五
- 循環水 三三四
- 處女水 三三四
- 自然は異變を作為しない 三三一
- 食鹽含有アルカリ泉 三五三
- 及芒硝含有アルカリ泉 三五三
- 含有土類泉 三五四
- 泉 三五四、三五四、三六三、四四、四四六
- 含有苦味泉 三五七
- 芒硝苦味泉 二二五
- 石膏苦味泉 三五七
- 正苦味泉 三五八
- 浴 四二四
- 持續湯 四〇六
- 溫度卷法 四九七
- 濕度 四三六
- 森林氣候 四四一
- 消化器病 四四四
- 心臓病と泉水 四五六
- 神經疾患 四五八

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



温泉知識

炭酸瓦斯と地獄 三三八  
 泉 三三二、三三七、三八〇、四二七、四五七  
 含有食鹽温泉 三五五  
 浴 四一三  
 單純泉 三四四、三七九  
 痰の湯 四三二  
 多血性肥滿 四七三  
 膽石 四七四

ち

治療新論 五〇  
 中性温度浴 四〇〇  
 の閾限度 四〇一  
 高山氣候 四四一  
 風動脈硬化症特效の温泉 五二四  
 窒素吸入 四三二  
 腸と泉水 四三〇  
 聽器疾患 四九五  
 チレニウス 二四、一五八、七五

つ

柘植叔順(龍州)の温泉説

と有馬温泉 二一八  
 の家歴 三三〇  
 の有馬温泉救済策 三三三  
 夫人節衛 三二六  
 の假造泉 二七〇  
 ツインキル 三二六

て

天皇の温泉行幸 二二七  
 然泉と人工泉との比較 四三三  
 候 四三三  
 手形 二一〇  
 泥浴 三五五、四六四  
 鐵泉 三五八、三七六、四二八  
 轉地 四四一  
 テブリツツ温泉 二五七

と

獨逸温泉治療學會 一三  
 危險豫防協會 一五〇  
 豆州熱海誌 五四

五八四

動物に縁ある温泉名 一〇五  
 熱と死熱 二四九  
 脈硬化症 四四三  
 湯崗子温泉 四〇一、三三六  
 の泥浴 四〇四  
 土類泉 三五三、四五三  
 含有アルカリ泉 三五三、三八一  
 炭酸泉 三五四、三七四  
 含有食鹽泉 三五六  
 透竈作用 四三三  
 糖尿病 四六九  
 特效の温泉 五〇七  
 ドルノ線 五〇三

な

長與專齋 一一、五九  
 中島桑太 五二  
 内務省衛生局雜誌 五三  
 ナウハイム温泉(療養客統計) 四、七、二〇  
 の新研究所 二六二

に

日本温泉協會

鑛泉誌 一一、五八  
 温泉學の發達 二二  
 温泉誌 五五  
 温泉考 五五  
 鑛泉論 五六  
 轉地療養誌 六一  
 鑛泉分析表 六一  
 温泉氣候學會 六七  
 温泉と風景 九一  
 の分佈 三六五  
 統計 三七九、三〇〇  
 に於ける泉質別けの温泉所在 三七九  
 光 四三六  
 西川義方 六七  
 新帶技師の滿洲國温泉考案 三三三  
 入浴 三九九  
 に関する注意 四三七、四六五  
 妊婦の入湯 四八〇  
 熱病患者と水治療法 二四五

ネンドルフ鑛泉

野島小八郎 二八二  
 腦充血に效く泉水 四五八  
 溢血と泉浴 四五九  
 神經病特效の温泉 五二二

の

原雙挂の温泉説 二九  
 花卷温泉の演舞場經營 一四七  
 哈倫阿爾山温泉 三五、三八  
 放射能作泉 三六二、三七八  
 肺結核の氣候療法 四四三  
 と泉效 四四三  
 氣腫の森林療法 四五六  
 膀胱炎 四九〇  
 微毒 四九三  
 反應性(刺戟性)巻法 四九七、四九八  
 バイデンバーデン 一四  
 バードクロニツク 二四七

は

ひ

飛彈の鳥 一〇九  
 引出物と泉水 二六七  
 瘡病 三三九  
 砒温泉 三六〇  
 皮膚病 四八五  
 に效く泉水 四八六  
 特效の温泉 五一  
 比較的濕度 四三七  
 貧血に效く泉水 四六六  
 血性肥滿者 四七三  
 脾臟病 四七四  
 泌尿器疾患 四八九  
 鼻病 四九五  
 避暑避寒の湯治場 五一八  
 ヒルモンド温泉 二五四  
 ヒポコンデリー 四六二  
 ヒステリー 四六三

ふ

五八五

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上

索引



藤浪剛一 六六  
 扶氏の水治療法提唱と實施 二四三、二四五  
 温泉治療學研究 二四六  
 温泉地行政 二四七  
 時代の温泉效果成績 二四七  
 の化學分析觀 二四九  
 温泉分類 二五三  
 布施廣雄 二八四  
 吹上温泉 三三九  
 沸騰泉 三三九  
 風土 四三三  
 舞踏病 四六三  
 婦人病 四七九  
 特效の温泉 五〇九  
 不透性反應器法 四九八  
 フランチェスバード 六  
 フーエラント 一三  
 と温泉治療 六六  
 アレトメル 二、一八、七五  
 フエロイオン 三五九  
 フエリイオン 三五九  
 プリースニツツ 四九七

巻法 四九八  
 別府市外の地獄 八九  
 兵衛坊元式 二四  
 北載河 三〇九  
 平地氣候 四四一  
 ヘールツ 五五  
 ベルツ 五六  
 氏の温泉改革說 一四六  
 ほ  
 本朝温泉雜稿 三八、二四  
 邦温泉論考 六六  
 豐大園と有馬湯治 二一〇  
 保養地取締法施行 一五四  
 芒硝含有アルカリ泉 三五三  
 性食鹽泉 三五五  
 食鹽泉 三五六  
 性苦味泉 三五七  
 飽和度 四三六  
 ホフマン 一一

五八六  
 ホツシユの提案 一五五  
 ま  
 眞鍋嘉一郎 五三  
 滿洲國温泉を巡りて 二九八  
 名表 三〇〇  
 政策 三三四  
 麻痺に效く温泉 四五九  
 慢性礦物中毒 四七一  
 子宮實質炎 四八一  
 濕疹に效く温泉 四八七  
 み  
 三宅意安 三八、二四  
 秀 五三  
 水の力學的器械的作用 四〇七  
 ミリヅル 三五〇  
 モル 三五〇  
 む  
 昔の温泉行遊 一一四  
 蒸し風呂 四〇七

め  
 明礬泉 三六〇、三七七  
 綠礬泉 三六〇  
 迷走神經 四一一  
 も  
 沐浴忌日 四〇  
 模範的温泉設備 一八四  
 モルイオン 三四九  
 や  
 藥湯 三六  
 山村通巷 四八、二五、三六八  
 ゆ  
 湯澤の湯 四九  
 一に因んだ温泉名 九四  
 一當り 二二  
 一當り 四七、四七  
 游具略 二九  
 熊岳城温泉 二九八、三五

よ  
 浴醫 七三、二五一  
 劑 二四四  
 沃度泉 三六一  
 讀み難き温泉地名 五五一  
 ら  
 卵巢 四八二  
 ラヂウムエマナチオン 六四、四六  
 ラ泉 五〇三  
 り  
 龍箒 三五、三六  
 硫化水素瓦斯浴 二五六  
 泉 三六一  
 吸入 四三二  
 綠礬泉 三六〇、三七六  
 流産と泉效 四八五  
 リュマチスムス 四六二、四六五  
 特效の温泉 五〇八

れ  
 冷水浴 二四三  
 效果 二四三  
 湯 四〇〇  
 ろ  
 ローベルク市の温泉問題 一七、七七  
 ロシヤ式蒸風呂 二四三、四六六  
 五八七

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上

昭和十三年九月二十三日印刷  
昭和十三年九月二十八日發行

溫泉知識  
定價金五圓

著者權所有



著者

藤

浪

剛

一

發行者

丸

善

株

會

東京市日本橋區通二丁目六番地  
右代表者 取締役 金澤末吉

印刷者

君

島

潔

東京市小石川區久堅町百八番地  
共同印刷株式會社印刷

發行所

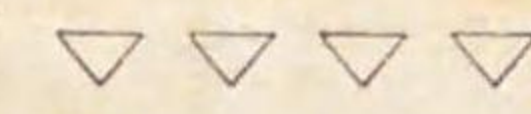
東京市日本橋區通二丁目  
(振替口座東京第五番)

丸善株式會社



# 丸善株式會社

## 支店及出張所



東京市神田區小川町三丁目(駿河臺下)	東京市芝區三田二丁目(慶大前)	東京市牛込町早稲田鶴卷町(早大正門前)	横濱市神奈川區日吉町(慶大豫科前)	東京市麹町區(丸ノ内ビルデング)	大阪市東區博勞町四丁目	神戸市明石町三十一番地(元居留地)	京都市中京區三條通麩屋町西入	名古屋市中區榮町三丁目	横濱市中區辨天通二丁目	福岡市博多上西町	仙臺市國分町五丁目	札幌市北三條停車場通	京城市本町二丁目三番地
神田	三田	早稲田	日吉	丸ノ内	大阪	神戸	京都	名古屋	横濱	福岡	仙臺	札幌	京城市
支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店
支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店	支店

入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



洗法隨上坐須熱當閉戶須冷當開下坐不  
得違上坐入浴室洗時上坐應先入取好沐  
洗浴此入浴室中洗法目六群比丘佛制也  
又一時比丘共俗人入浴室洗佛聞之不聽  
比丘不得與白衣一時浴室中共洗若有罵  
信檀越聽之後一時諸比丘皆裸身入浴室中

共洗各各相視皆生慙愧因此展轉乃徹世  
尊佛言從今已去不聽裸身共入浴室洗復  
不得相洗若一有衣一无衣有衣得與无衣  
者淋水亦得洗之无衣者不得漙水洗他若  
浴<sup>耳</sup>室<sup>6837</sup>去水遠者<sup>聽</sup>聆浴室中安池水亦得灑井  
入浴室洗法如是應廣知入浴室洗僧中上



